

わたしにとつての『戦争』

編集部

屋根に機銃の弾が

十一回生 伏見 千瑞子

今年、戦争が終わって70年。多くのマスコミでも同じような特集を組むであろうことが、予測されました。

でも、昭和8年卒から54年卒まで46年間に及ぶ会員を擁する千里山会、しかもよく見知った、親の世代に当たろうかと思われる方の戦争体験や、また逆に自分の子ども世代の方の戦争観をお互いに知っていただきたい。とその中間世代である私(萩原)は考え、企画しました。

実に十一名の方から文章を寄せていただき、私が意図した、世代間の意見交換の場を設けることが出来たことを、皆様のご協力のお陰と感謝しております。

皆さまからお寄せいただいた作品を、ここにご披露させていただきますので、是非、お読みいただき、改めて後日にも、ご感想・ご意見をいただけたらこれに優る感激はありません。

まずまず戦争は、はげしくなり、私はNHK(大阪の)に入り男性のかわりが出来るように、電気類やラジオの組立、放送の技術など今まで男性のやつていたことを教えられて、各部にまわされ仕事をすることになりました。

NHKに通うのも千里山線で天六まで(終点でした)行き、市電に乗ってNHKまで行くのですが、その頃はもう大阪も空襲が多くて、電車もとまり大変になって来ました。それで大きなトラック(大阪NHKの近くに練兵場があって兵隊さんの乗ったトラックがよく通ります)に手をあげて荷台に引つ張り上げてもらい、よく乗りました。

終戦はNHKで重大ニュースがあるので、明日は何事があっても出てくるようにと言われました。

この日は大阪に大空襲があり、天六からの電車は淀川の橋とか鉄橋がやられたとかで電車は動かず、梅田まで行き、これも淀川の橋は通れなくて、鉄橋の線路を歩いて渡りました。淀川の橋の上から下を見たら川が流れており、線路の間のマクラギをポンポン飛びこえました。でも下に川が流れている所など、こわいこわい思いがし、落ちても仕方がないわ・・・と感じながら渡りました。それから十三、淡路と千里山まで線路を歩いて、やっと夜中に家に帰りつきました。で

昭和三年生まれの私は女学校入学した頃より、戦争にひっかかって過ぎて居ります。

女学校も一年より三年位までは何事もなく通学して居りました。でもその頃より私の学校に外国人教師が多くいらしたのがだんだん見えなくなり、教室での航空兵の軍服のボタンつけとか、金具つけとかの奉仕をするようになりました。体操の時間にはナギナタなどを教えられたりと、そして少尉位の兵隊さんが軍事訓練をしているかと思えるようになり、でもまだ勉強の方はして居りました。

体操の時間にはハンドボール(その頃は送球といっていました)などもやって、まだまだ楽しい生活をして居りました。そのうちモンペをはいてズキンをかけて軍需工場に出かけるようになり、工場の大きな機械を動かして飛行機の小さな部品を作らされて居りました。大阪にも警報が出つばなしでバクダンも落ちるようになって来ました。警報と共に防空壕に避難して・・・大変な時を過ごしました。

豊中の学校は焼けずに無事だったので卒業式も学校ですることが出来ました。

も、次の日は絶対NHKに来るようといわれてたので・・・出かけて行きました。そこで兵隊さん達といつしよに終戦の天皇の声を聞きました。これで戦争は終わったと・・・

千里山はさいわいに空襲がなかったのですが、毎晩サイレンはなり響いて居りました。

私の家でも庭のスミに防空壕を作り、父がその穴の上に庭のスズランを植えたりして(これは死んだ時お墓になるからとのこと)、警報の出るたびにこの中に入って居りました。でも私とお友達は千里山で大変こわい思いもしました。それは関西大学(関大といっていました)に日本の兵隊さんが入っていてそれをめざしアメリカの小さな飛行機が飛んできました。私の友達のお家とその関大の近くにあつて、友達と二人でそのお家に行く途中に警報になり、小さなプロペラの飛行機が私達二人の上まで飛んで来て、乗っているアメリカ兵の顔が見える位の近さでした。お友達の家の石段を駆け上がって友達のお母さんが私達にフトンをかぶせて・・・その間、飛行機は屋根の上をブンブンと飛んでいました。よく撃たれなかつたと今でも思い出します。屋根にはパラパラと機銃掃射の弾があつたそうです。

終戦と共に警報もなくなり部屋に明かりが

くようになり、夜中に防空壕に入らなくなつて嬉しくなりました。でも戦争が終わつてからの方が食料もだんだん少なくなり、大阪で焼け出された人達が私の所にも来たり大変でした。私のバラ島もサツマイモを植えたりと島になり、それも葉っぱばかり育つてなかなかサツマイモは出来ないで、お米も配給・・・でも皆元気で、千里山は焼けずにそれだけでも嬉しいことでした。

私はNHKに戻つて仕事をしたかったです、父が「女が勤めることのない時代でした。戦争中は別として・・・ということ、先ずはモンペを脱ぎすてオシャレがしたくて自分で着るものを・・・洋裁学校に造形学校に行くことになり、その後、帽子を作つてみたいということ、大阪には教えて下さる方がなく東京にと出るようになりました。ここからが私の楽しい又大変な仕事と生活が始まります。

東京では今のサロンドシャポー（その頃はまだ学校ではなく仕事場で、古い職人さん達に教えて頂きました。そしてサロンドシャポーという学校が出来て、私に先生になつて・・・と言われ、しばらく先生業をして居りました。

昔は（もう50年も前です）東京に行くといふだけ

アトリエに行くことになり、帽子の友達四人で一か月30日間、そしてあと、グルーッとヨーロッパを廻つてと・・・全員の親達に反対され、女の子四人であぶないといふことで仕方なく旅行会社の方一人付けて北から南廻りと旅に出ることが出来ました。とても楽しい思い出です。それから、しっかりと仕事・スキー、たまに日本旅行と・・・忙しく過ごしてきました。そして六十歳位より仕事も少しずつ減らして、ヨーロッパ旅行にと。旅行も簡単に行けるようになり初めて一人でツアーに入り、何と楽しいんだと次々と年に二度位、一人で出かけて居りました。仕事もちゃんとやってきました。今はもう遠出の旅はやめて、一番近い軽井沢に、やっぱり一人で年に一度、春先の新緑の出る頃、一番静かな時に出かけております。もうこの歳で、今年が最後の軽井沢かと思つています。

何か一人で好きなこととして楽しんで生活をしたいよ

うで、戦後70年といふことですの・・・

好きなこととして好きなように時間を過ごせたこと、私は楽しかったと・・・大変なことといっぱいありましたけれど、その時その時を一生懸命だったのだ

と・・・私は思つてます。一月生まれの私、今年で満八十七歳となりました。学徒出陣で国のために亡くなられた方達、又日本での空襲で亡くなられた人達、た

で、大変なことだったのです。お米の通帳を持って（配給だったので）、ケムリの汽車に乗つて・・・

今の外国旅行の方が簡単だったようです。家では月に一度は「帰つて来い」といふことで、それは約束で私も守つてケムリの汽車ポツポツで、夜行を利用して帰つておりました。千里山でも洋裁を教えて欲しい方がいらしてその度においこをして又東京に帰ることになつておりました。東京でも帽子をやりたい人達が私の所に集まつて来て、楽しく一緒に仕事をするようになりました。この頃になると少しは食糧事情もよくなつて・・・でもまだまだ大変な時代でした。私の帽子もあちら・こちらのお店に出すようになり忙しくなり、暮らしの手帳・婦人画報と本にもだし、共同通信では毎月一回、決まつて帽子だけでなくいろいろと書くようになり、忙しくなつて来ました。

忙しい合間をぬつてスキーに出かけて、シーズン30日以上、滑りに行つて（仕事を片付けては）ました。これも夜行の煙の汽車ポツポツの時代です。志賀高原に出かけ滑りまくつて、怪我也よくしました。60歳で辞めることにしました。「怪我したらもう治らないよ」と言われて、それからは外国旅行に変更しました。

昔々今から60年位前にやつと外国に行けるようになり、パリの帽子の先生ジャンバルテさんの仕事場

ただだ国の命令に従うしか出来ない時代でした。今は何でも出来る、本当に良い時代を・・・

平和な時を長く長く、続けられますように、心より祈つております。

学徒出陣で亡くなつた方達の冥福を心よりお祈り致します。 おわり

編集部 追記

伏見様のお姉様も千二小の大先輩

水川美奈子様…二回生 山東洋子様 …三回生
で、もうお二人とも既にお亡くなりになつて居るそうです。まは、木村久氏と、山東さまは、朝日奈（結婚されて六角）明子さんと同級生です。